

第 60 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

○と き：令和 3 年 10 月 21 日（水）14 時 15 分から 15 時 10 分まで

○ところ：大阪府新別館北館 1 階 災害対策本部会議室

○出席者：吉村知事・田中副知事・海老原副知事・危機管理監・政策企画部長・健康医療部長・教育長・報道監

（リモート出席）山口副知事・総務部長・財務部長・福祉部長・商工労働部長・ワクチン接種推進監・府警本部警備部長・大阪市健康局首席医務監

【会議資料】

会議次第

- 資料 1 - 1 現在の感染・療養状況について
- 資料 1 - 2 第一波から第五波までの感染・療養状況について
- 資料 1 - 3 感染状況と医療提供体制の状況について
- 資料 1 - 4 滞在人口の推移
- 資料 1 - 5 飲食店等に対する措置内容の周知徹底の取組み
- 資料 1 - 6 営業時間短縮要請の実効性確保に向けた取組み
- 資料 1 - 7 感染防止認証ゴールドステッカーについて
- 資料 2 - 1 府民等への要請
- 資料 2 - 2 府立学校における今後の教育活動について
- 資料 2 - 3 専門家のご意見
- 資料 3 - 1 大阪モデル「警戒」（黄色信号）解除の目安達成に係る対応
- 資料 4 - 1 大阪府自宅待機者等 24 時間緊急サポートセンター（仮称）の運営開始について

【知事】

- ・皆さま、お疲れ様です。
- ・大阪の新規感染者の状況ですけれど、9 月 1 日には 3,000 名を超えるという非常に大きな感染になりましたが、府民の皆さん、それから、事業者の皆さんのご協力もありまして、現在は感染が大きく減少している状況です。
- ・一日あたりの新規陽性者数も 2 桁という状況になってきています。
- ・併せて、病床のひっ迫も、ずいぶん解消されました。
- ・そして、我々のモニタリング指標である「大阪モデル」も黄色から緑色になる基準を昨日満たしました。
- ・これは、2020 年 7 月以来、約 1 年 3 か月ぶりという状況になります。
- ・この状況を踏まえまして、府民の皆さん、事業者の皆さんにお願いをしている内容について、専門家の意見を聞き、判断をしてまいりたいと思います。
- ・特に、飲食店の皆さんにお願いしています、時短要請、それからお酒の提供の自粛要請については、全て解除という判断をしたいと思います。

- ・ただ、昨年もそうでしたが、11月以降に感染が拡大していく、そして年末年始にピークを迎えるということがあります。
- ・去年と今年を振り返っても、この感染の山、時期が非常に重なっています。
- ・ウイルスはゼロにはなりませんので、今後、感染が拡大する可能性は十分あると思っていますので、引き続き、府民の皆さんへの感染対策のお願いを徹底してまいりたいと思います。
- ・その中で、特に会食に対して、4つのルールを定めていきたいと思っています。
- ・同一テーブルは4人以下でお願いしたい。時間についても2時間程度以内でお願いしたい。ゴールドステッカー認証店舗を是非利用していただきたい。マスク会食を徹底していただきたい。
- ・この4つのお願いを、府民の皆さんにぜひお願いをしていきたいと思っています。
- ・このあと、詳しく本部会議で方向性を決定していきたいと考えています。
- ・また、飲食店について、43項目という非常に厳しい感染対策を徹底してくれているゴールドステッカー認証店舗と、非認証店舗があります。
- ・認証店舗に関してはグループの上限数までは求めませんが、ただ、同一テーブルは4人以下ということ、また、2時間程度以内ということもお願いをしたいと思っています。
- ・非認証店舗につきましては、同一グループ・同一テーブルともに4人以下でお願いをしたいということ、今日の本部会議で議論しながら最終の判断をしたいと思っています。
- ・感染状況は減少傾向にあります。今後の見通しとすれば、やはり冬になり、去年の状況を見ても、増えてくる可能性が高いので、府民の皆さんの感染対策の徹底、事業者の皆さんにも協力をお願いします。
- ・そして、大きな山にできるだけしないようにする。社会経済活動と両立させるようにしていく。その道を図っていききたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

※資料1-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-4に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-5に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-6に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-7に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-1に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-2に基づいて、教育長より説明。

※資料2-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-1に基づいて、健康医療部長より説明。

【田中副知事】

- ・最近の感染状況と病床使用率を鑑みますと、今回の措置内容に賛成です。
- ・その上でひとつお願いですけれども、第六波に向けて、今だからこそできる準備というのがあると思

います。

- ・それは、感染拡大防止とか、医療体制もありますが、やはりもう一つは、第一波から第五波にかけての経験を踏まえたいろんな科学的な分析、これは健康医療部長にお願いしたいです。
- ・「おそらくこうだろう」というようなことはよくあったんですが、それをきちんと裏付けるデータがあれば、今後、第六波が来て、またいろんな協力要請をする時に、より説得力があると思う。
- ・そういう意味で、非常に大事だと思っているんですが、ただ、その際、大阪だけのデータでは限界があると思っています。
- ・他府県のデータとクロスすることによって、分かることもありますし、あるいは、同じ分析でもより信頼性を高めるといってもありますから、是非それをお願いしたい。
- ・実際の分析は、専門家の先生にお願いしたいと思いますが、そういう必要なデータをきちんと揃えるというのが我々の仕事だと思います。
- ・既にそういう取り組みをされているのでしたらいいのですが、まだ途中ということであれば、大阪から声をかけて、近隣の県、あるいは、場合によっては国に対してお願いをしていかないといけないと思うので、是非お願いしたい。
- ・今の状況はどうですか。

【健康医療部長】

- ・厚生労働省の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードで、毎週、感染状況について分析をされています。
- ・大阪府はデータがかなり詳細に揃っている団体でもあると思いますので、提供しながら、厚生労働省の専門家会議と連携して、しっかり分析してまいりたいというのが一点。
- ・また、国立感染症研究所や大阪健康安全基盤研究所におきましても、変異株の広がりゲノム解析を踏まえた分析等を進められていると思いますので、専門機関とも連携し、今後、新たな変異株が生じた時に、どういう対策をとればできる限り感染拡大を抑えていけるのか等について、しっかり共有してやっていきたいと思っています。

【田中副知事】

- ・感染拡大のメカニズム、いろんな対策がどういう効果をもたらすのかという因果関係の分析をきっちりとしたデータをもとに是非お願いします。

【海老原副知事】

- ・今、第五波が収まって、第六波に向けて振り返りの時期だと思います。
- ・その中で、資料1-2で詳細な分析をしていただいている、国の関係者に聞いても大阪のデータは非常に精度が高いことはよく聞くので、今回、まとめていただいたことには敬意を表したいと思います。
- ・その中で、例えば、大阪のような都市部と地方部で、やっぱり傾向がだいぶ違うのではないかと。
- ・例えば、人流と感染者数の増加の関係であるとか、都市部と地方部、あるいは都市部的な対応と感染の相違というか、類型化とか、そういう分析もできるといいのかなと思っています。

- ・国の機関と話す機会があれば、地域特性に合わせた感染対策という切り口があり得るような気がするので、そういう議論をしていただけたらありがたいなと思います。
- ・それともう一点、朝野先生のご意見の中で、宿泊療養施設に医療的なケアを入れていったことを高く評価していただき、これは大変ありがたい。
- ・これは、大阪が全国に先駆けてやってきて、早期介入、早期治療、重症化予防の鍵となったことを認めていただいたと思うのですけれども。
- ・今、厚生労働省の動きを見ていると、病床確保にすごい力が入っているという印象がある。
- ・病床確保はもちろん大事だし、やらなきゃいけないと思うのですけれども、その一本足打法になっちゃうとどうなのかなというのもあって、朝野先生のご意見にあるような、病床確保はもちろんですけれども、あわせて、プレホスピタルの場面で早期に医療的な介入を行っていくという、今の大阪府の取組みもしっかりやっていく必要があると思います。
- ・落ち着いている今だからこそ、そういったことも国に対して、大阪府の意見として提案していただければありがたいなと思いますので、意見として申し上げておきます。

【健康医療部長】

- ・海老原副知事がおっしゃっていただいたご意見のとおりだと思っています。
- ・大阪は第四波が非常に厳しい状況でしたので、第五波では早期治療によって重症化を防ぐという方針を医療機関と共有し、あらゆる機会、入院治療だけではなく、ホテルも含めて早期治療体制を整えるという方針で臨んでまいりました。
- ・第六波に向けても、その点をさらに強化するということで、診療型ホテルの設置、外来医療機関の強化、そこに患者さんが直接アクセスできるルートの確保ということ、先週から圏域ごとに COVID-19 の病院連絡会を開催し、各医療機関との方針の共有、それにあたっての問題点の洗い出しに着手しています。
- ・急ぎ、第六波に向けて、初期治療体制を地域ごとにしっかり整えるということと、必ずしも入院でなくても早期治療が可能だということ、大阪からもしっかり発信していきたいと思っています。

【山口副知事】

- ・今回、感染が府民の皆様のおかげで収まってきたということで、制限緩和として、いろんな制限を解除するというについてはその通りだと思います。
- ・長期にわたってかなりの負担をお願いしてきたということで、大きな転換点はここだと思う一方で、全面解除ということではなくて、そろりそろりとやることで、会食の4ルールであるとか、間近に迫っているハロウィンについても参加を控えることを求めていくということでやはり丁寧な説明がいると思う。
- ・特に、事業者の皆様、どういうふうに変更されたのかということをしっかり伝えていく必要がある。
- ・併せて、当面は、飲食店の場合は今月末までと言ってところ、25日から措置内容が変わるということで、期間が早くなったということでもしっかりと説明が求められる。
- ・ただ、そこで気になっているのがコールセンターで、平日9時半から17時半となっているが、土日

も挟むので、しっかりこの土日の対応を検討いただけないかと思っておりますが、いかがですか。

【危機管理監】

- ・特に、飲食店をはじめとする事業者の皆さんは、これまで一年近くいろいろなご協力をいただきました。
- ・それがかなり変わるような内容になっております。
- ・これまでも、コロナ本部会議で要請内容が決まると、事業者の皆さんには、事業者団体等を通じてご連絡をしていますが、併せて今回もしっかり説明してまいりたいと思います。
- ・コールセンターについては、平日に限らず、今週の土日も含めて対応していきたい。

【山口副知事】

- ・できるだけ丁寧に対応していただいて、そろりそろり解除していく趣旨が十分に浸透するように対応をお願いしたいと思います。

【知事】

- ・まず、山口副知事の意見に関連して、コールセンターは是非土日もやってもらいたいと思う。
- ・25日をもって、(大阪モデルの)緑の信号になり、時短要請の解除、お酒の提供、その他の要請もしないということになる。
- ・協力金についても月末までではなく、お願いしている期間ということになるので、24日までの分になる。
- ・協力金の受付等は、詳細が決まれば発表していきますが、本日現在で協力金の受付をするわけではありません。
- ・そういった様々な問い合わせもあろうかと思うので、特に、今週末、来週については落ち着いていると思いますが、25日から新しいステージの適用になるので、週末と回線数、「コールセンターが繋がらない」ということができるだけ起こらないように、どうしても時間帯によっては繋がらないこともあるかもしれませんが、コールセンターの充実をよろしくお願いします。
- ・シンガポールやイギリスを見ても、ワクチンがものすごく進んでいるところでも、今、非常に大きな波になっています。
- ・その株は、どうもデルタ株だということで、制限解除をすることによって、社会経済も活発になってきます。当然、感染リスクという意味では高くなる、裏返しでもあります。
- ・諸外国の例を見ても、拡大する可能性は高いだろうと思っています。
- ・特に、去年と今年を比べても、波の時期はほぼ一致している。
- ・年度末、3月～4月と、夏休みに入る7月～8月、完全に一致しています。
- ・去年は11月ぐらいから徐々に増えてきて、12月～1月の年末年始に増えたということを考えたら、油断をもって判断はできませんが、推測という意味では今後増えてくるだろうし、ウイルスはゼロにはなっていませんので、基本的な感染対策をお願いすることが重要だと思っています。
- ・府民の皆さんには、特に、会食の4ルールのご協力をお願いしていきたいと思っています。
- ・4ルールもこれまでの専門家の意見等を踏まえたものになっていますし、急に時短要請とお酒の提供

の自粛を解除するわけなので、その中で、より安全に飲食を楽しんでもらうことが非常に重要だと思
い、会食の4ルールをお願いをしていきたいと思ます。

- ・同一テーブルについては4人以内、時間については2時間程度以内、ゴールドステッカーの認証店
のできるだけ利用をお願いするということと、マスク会食の徹底を府民の皆様をお願いしていきたく
と思ます。
- ・特に、飲食店の事業者の皆さんですが、もともと31日までの要請を予定していましたが、緑の基
準が点き、感染状況によってはその前に判断をするということは既にお伝えしていたとおりです。
- ・その中で、緑の指標を満たしたとしても、緑の信号にするのは本部会議で決定するというルールにな
っています。
- ・飲食店の準備期間等があると思ますし、周知の期間も必要だと思ますが、31日まで延ばすことで
はないと思うので、24日までは今の時短の要請等をお願いして、また協力金もお支払いをする。
- ・その間に、準備をお願いして、25日に新しいステージとして緑の信号とし、通天閣や太陽の塔に協力
してもらおう。
- ・ゴールドステッカーの店舗については、グループの上限数までは求めませんが、同一テーブルにつ
いては4人以下でお願いし、時間については2時間程度以内でお願いしていきたく。
- ・非認証店については、同一グループ・同一テーブルともに4人以下でお願いし、感染対策を実行して
いく。
- ・すぐに全て解除ではなく、基本的な感染対策の協力についてをお願いをして、できるだけ安全な飲食
の場で、飲食を楽しんでいただけるようにしていきたいと思ます。
- ・新しいステージは10月25日から11月30日までですが、11月中に感染が拡大する可能性もありま
すので、そうなれば改めて本部会議を開きたいと思ます。
- ・行政として、特に、今のうちに第六波に向けた準備を頑張らないといけないと思っています。
- ・海老原副知事からもありましたが、病床確保の強化、これは機能強化も含めて考える必要がある。
- ・入院してからがスタートではなく、その前のスタートの方が実はものすごく大切であって、その時に
医療行為・治療行為をできるだけ実行して重症化を防ぐ、どうしても重くなる方が入院する。
- ・入院がスタートではなくて、治療行為はもっと早い段階でスタートするということが重要になってく
ると思ます。
- ・病床確保や強化がトータルとして病床の負担を防ぐことになるし、府民の命を守ることにもつながる
と思ます。
- ・今、ホテルにおいて診療機能を持たせようということで進めています。
- ・手を挙げていただいている9施設については、診療所が中に入り、そこで抗体カクテルが投与でき
る、血液検査ができるというように、ある意味、コロナの小さな病院が入っているようなホテル療養
をめざしています。イコール病床ではないかもしれませんが、それに近いものになってくると思いま
す。ここを、ぜひ今のうちに詰めて、準備をしておいてもらいたいと思ます。
- ・それから外来や往診がこれから非常に重要になってきます。
- ・特に、保健所を介さない段階で、外来につないで、抗体カクテル療法、あるいは早期治療をするとい
うことが極めて重要になってくると思ます。
- ・既に170の医療機関が手を挙げてくれていますが、これからのそれぞれの医療圏ごとの会議において

も、大阪府が第六波に向けて、一番力を入れているところなので、これをやってもらえる病院、診療所、往診を今のうちにできるだけ増やすことに力を入れていきたいと思うので、よろしくお願いします。

- ・いざという時の場合に、大規模医療・療養センターの整備を並行して進めていますが、第六波は起きると思いますから、起きた時に対応できる社会というのを、今のうちにつくっておきたいと思います。
- ・どんな波が起きるかわかりませんので、予測できない部分もありますが、今までの経験と第五波までに、我々がやってきたことは間違っていないと思うので、そこを更に強化するというので、今のうちに第六波に備えたいと思うので、よろしくお願いします。

※資料4-1に基づいて、健康医療部長より説明。

【知事】

- ・こういった自宅待機者、自宅療養者のSOSセンターが非常に重要な取り組みだと思います。
- ・これからも原則保健所対応ですが、感染が急拡大した時、どれだけ保健所を強化しても、なかなか手が回らず、ひっ迫することは今後もあり得えます。
- ・そういった時に、自宅で放置させないようにするためには、保健所が介入しない段階で自宅療養者の皆さん、自宅待機者の皆さんがアクセスできるSOSセンターが重要だと思います。
- ・特に、今は早期治療の仕組みや薬剤ができてきていますし、大阪府においても実務フローというのがいろんなところで確立させていますから、医療をできるだけ早く受けしてもらい、あるいは宿泊療養について、保健所が介入する前に手配する。
- ・宿泊療養に手配すれば、そこで治療を受けられるような状況にもなってきています。
- ・健康相談や訪問看護等についても保健所を介入しなくてもできるようにするという事は、特に感染急拡大時に非常に有効になってくると思います。
- ・早期治療・早期介入が基本的な原則方針になっています。
- ・SOSセンターとして、24時間緊急サポートセンターが非常に重要になると思います。
- ・センター自体が感染拡大期に非常にひっ迫し、ここに連絡が繋がらないというのはよくないので、11月初旬から徐々にスタート、最初、感染が大きくない時は、そこまで難しくないかもしれませんが、できるだけその時期に慣れるようにしておいて、可変性が高い仕組みにしておいてもらいたいので、よろしくお願いします。

以上